

場面 2

服薬にまつわる課題や症状への対応

ロキソニンだけでは痛みがとりにくかったため、オキシコンチンを開始した。オピオイドをきちんと服用できているかの確認、そして効果や副作用の把握については、訪問看護師にフォローを依頼した。看護師は連日電話をかけて状況把握を心がけるとともに、今後は訪問看護の回数を週1回から2~3回に増やすことで対応することにした。その後、痛みは若干軽減し軽度の眠気が出現、また本人と妻とでは薬の管理が不十分なことが明らかになった。

服薬状況がきちんと把握できていないため、医師は困って多職種で集まって話し合う機会を設けるよう提案した。

○ 現在の処方：	オキシコンチン (5mg)	4錠	2x (9時、21時)	医療用麻薬
	ロキソニン (60mg)	3錠	3x (朝、昼、夕)	鎮痛薬
	タケプロン OD (15mg)	1錠	1x (夕)	胃薬
	マグミット (250mg)	6錠	3x (朝、昼、夕)	緩下剤
	アムロジン (5mg)	1錠	1x (朝)	降圧剤
	バイアスピリン (100mg)	1錠	1x (朝)	抗血小板剤
	シグマート (5mg)	3錠	3x (朝、昼、夕)	狭心症治療薬
	ザイロリック (100mg)	1錠	1x (朝)	痛風治療薬
	疼痛時 オキノーム (2.5mg)	1包		医療用麻薬

司会者を中心に、各職種は自分しか知らない訪問時の情報があれば、全員で共有してください。全ての情報を共有後、下記のQに取り組んでください。

Q 症状緩和のために各職種が服薬・処方に関して検討すべきことを考えてください

司会：歯科医師・歯科衛生士
 書記：訪問看護師
 発表：薬剤師